

少しずつ寒さが和らぎ、春の気配を感じる頃となりました。視聴覚教育センターでは、学年末のお忙しい先生方のお役に立てるように研修をつんで、ご利用をお待ちしております。困ったことや相談したいこと等がありましたら、お気軽にご連絡ください。

さて、今年度の最終号は先日行われた委嘱研究発表会の報告とプログラミング教育の動向を中心にお知らせしたいと思います。

委嘱研究成果・中間発表会

『学び』を深める効果的なICT活用」という全体テーマのもと、4名の先生方が個人研究に取り組んでいます。実践内容や成果・課題等について簡単に紹介します。

【1年次研究】芦野大介教諭（袖崎小）

研究テーマ「主体的・創造的な活動ができるICTの活用」



地域の素材を使った電子紙芝居を作り多くの人に袖崎の良さを伝えたいという児童の思いを、総合的な学習の時間で、タブレット端末とアプリを効果的に使って授業実践をした発表でした。成果として、1人1台のタブレット端末を活用して絵を描いたりマップを作ったりする活動を仕組むことで、自主的で創造的な活動につながったこと、1つのものを作ろうとする協働的な学びがあったことが挙げられました。

来年度に向けて、子ども達のタブレット端末を操作するスキルを生かし、いろんな教科で活用していくことや多くの人に発信していくことに取り組みたいという報告がありました。

【1年次研究】矢萩 健教諭（東根一中）

研究テーマ「生徒の主体性を引き出すICT活用～中学校社会科における効果的な活用方法～」

NHK for schoolの動画やパワーポイントの自作資料などを導入場面で活用した実践、生徒のノートやプリントをタブレット端末のカメラで撮ってテレビに映して情報を共有した実践、複数のタブレット端末を生徒が使って調べ学習し、AirDrop機能やAppleTVを使って情報共有や提示を行った実践の発表でした。生徒として、単元の場面で動画や資料をICTを使って提示することで学習意欲が継続することなどが挙げられました。来年度は、生徒が様々な場面でICT機器に触れられるようにし、タブレット端末等を用いた学習活動がスムーズに展開できるようにしたいという発表がありました。

★★ Music Planetarium の案内 ★★

～星とチェロの協奏曲（コンチェルト）～

チェロの生演奏を聴きながら春の星空を散歩するスペシャルプラネタリウムを開催します。

詳細は、[北村山視聴覚教育センター](#) で検索してください。

☆開催日時：3月9日（金） 19時～20時

☆場所：北村山視聴覚教育センター

☆定員70名（事前予約が必要です）

【2年次研究】青柳 豊教諭（尾花沢小）

研究テーマ「ICT活用を通して、児童同士がかかわり合う「対話的な学び」の育成を目指して」

デジタル教科書、動画、パワーポイントを活用し、児童が目的意識をもって主体的に取り組むための工夫や、タブレットの作戦盤アプリやカメラアプリの活用による必要感のあるかわり合いになるための工夫についての実践でした。成果として、タブレット端末を児童が必要ときに与えて活用することで、児童同士が対話を通して交流し、そこからまた新たな知識や技能の習得につながったことが報告されました。この2年間の研究を通して、今後の授業にICTを積極的に活用し、児童が「主体的・対話的で深い学び」ができるよう教材研究を深めたいと提言がなされました。



【2年次研究】松田 恵教諭（大石田小）

研究テーマ「授業における効果的なタブレットの活用」

課題や問題の提示にICT機器を使って視覚化する実践、学習の理解を促したり深めたりするためにアプリを活用してリアルな場面に近づけた実践、簡単な評価に使えるアプリの実践が報告されました。成果として、自分が使いたい用途に応じたアプリはたくさんあり有効であることやタブレットとアプリを使うことで、実際の場面と学習場面をなるべく近づけることができ、効果的な学びができたことが挙げられました。2年間を通して、タブレット端末の活用はこれからの授業づくりに大変有効であること、手軽に使うためにも、アプリの購入やインターネット環境などの整備が必要不可欠であることが提言されました。

【4名の先生方の研究詳細については、来年度の視聴覚センター要覧やセンターホームページで確認してください。本当にありがとうございました。】

プログラミング教育の実施に向けて

（北村山教育研究会メディア教育部会 ICT研修会より）

県教育センターの伊藤泰司指導主事を講師にお招きして、プログラミング教育の実施について研修を行いました。プログラミング教育の必修化の背景には、コンピュータが多く活用される世の中となり、生活に身近なものを学ぶことは必要で、その中の世の中を便利にしているものの仕組みとしてプログラミンがあること言うことが1つの要因となっている。小学校においては、「文字入力など基本的な操作を習得すること」「プログラミング的思考を育成すること」がポイントとなっている。



そのため、いきなりプログラムして物を動かすのではなく、発達段階に合わせた学習カリキュラムを作っていく必要があって、現在研究が進められているそうです。また、Scrach（スクラッチ）や Tickle（ティックル）などのプログラミング言語を使った学習も研究されているそうです。新学習指導要領の完全実施まで2年ありますが、まだまだ不透明な部分が多いようで、先生方は不安で仕方がないと思います。今後ますますプログラミング教育の研修が必要であり、視聴覚センターとしても情報発信していかなければならないと感じた貴重な研修会でした。